

Relationship Between Oral Health, Quality of Life, and Comprehensive Health Literacy in Community-Dwelling Older Adults

奥村（松尾），里香

<https://hdl.handle.net/2324/7157300>

出版情報：Kyushu University, 2023, 博士（看護学），課程博士
バージョン：
権利関係：(c) 2023 Springer Publishing Company

氏 名 : 奥村 (松尾) 里香

論 文 名 : Relationship Between Oral Health, Quality of Life, and Comprehensive Health Literacy in Community-Dwelling Older Adults

(地域在住高齢者における口腔の健康、QOL と包括的ヘルスリテラシーとの関連性)

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

全身の健康に影響するため、口腔内の健康を良好に保つ重要性が認識されている。また、口腔疾患の有病率にはヘルスリテラシーの低さが関連している。そこで、本研究の目的は、地域在住高齢者の包括的ヘルスリテラシーが客観的な口腔衛生および口腔健康関連 QoL (OHRQoL) と関連するかどうかを明らかにすることとした。

65 歳以上の参加者へ自記式質問票を配布した。同日、口腔健康評価ツール (Oral Health Assessment Tool) で収集したデータを用いて、参加者の口腔状態を客観的に評価した。質問票には、OHRQoL を測定するための General Oral Health Assessment Index と包括的ヘルスリテラシーを評価する European Health Literacy Survey Questionnaire の短縮版を含めた。データは単変量および多重ロジスティック回帰法により解析した。

本研究に参加同意したのは 145 名で、うち 118 名が本調査の有効回答者 (81.4%) となった。118 名のうち、客観的口腔衛生の「口腔清掃」が「病的」であったのは 18%であった。多重ロジスティック回帰分析により、包括的ヘルスリテラシーは口腔清掃と OHRQoL の関連因子として特定された (各々 OR=5.00;3.33, $p<0.01$; $p<0.05$)。

これらの結果から、包括的なヘルスリテラシーが、臨床上の成果を変えることを示唆している。高齢者は口腔の健康問題だけでなく、併存疾患を抱えていることが多いため、看護師は併存疾患のフォローアップの機会に、ヘルスリテラシーを評価し、個人に合わせた口腔健康指導を行い、OHRQoL を向上させていくことが重要である。